

# 御手洗池のおばば

八千代町

昔々のことです。八千代町の菅ヶ谷という地域には、諏訪神社という鎮守様があり、その近くに「御手洗池」と呼ばれる小さな泉が存在していました。

この泉のほとりには大げやきの木が立っており、その根元からは清らかな水がこんこんと湧いていました。しかし、このあたりには恐ろしい「御手洗池のおばば」という老婆が住んでいると言われていました。

ある夏の日、村人の吾助が夏祭りの後片付けで夜遅くなり、軽く酒を飲みほろ酔い気分の帰り道のことです。ふらふらと神社の細い下り坂を歩いていると、大げやきの木の近くから、なにやら不思議な音が聞こえてきました。「しゃかしゃか、こしゃこしゃ」



何かを研ぐような洗うような奇妙な音がする方をよく見ると、泉のほとりで小さな老婆が夜更けにもかかわらず、一心不乱に作業をしておりました。途端に酔いもさめ恐怖に駆られた吾助は、「ぎゃー」と叫ぶとその場を一目散に逃げ出しました。

この老婆を目撃した村人はたくさんいました。夏の暑い日中でも御手洗池の周りには心地よい風が吹き抜けています。大げやきの根元から湧き出る冷たい清らかな水で、村人たちはのどの渇きを癒していました。そんな時決まって老婆を見かけるのです。しかし、老婆は村人に何か悪さをするわけでもなく、ただそこに佇んでいるだけで、皆その老婆が何をしているのかはわかりませんでした。その様子を見た村人たちの間でいつしか「あのおばばは、泉の番をしているのかもしれない」と噂が立つようになりました。

しかし時が経ち、大げやきの木が切り倒され、やがて清らかな泉も枯れてしまいました。それと同時に「御手洗池のおばば」の姿も見ることができなくなりました。現在、御手洗池は跡形なく、その存在は昔話としてだけ言い伝えられるようになりました。

〈参考文献〉八千代町の伝説と民話(平岡雅美編) ※掲載事項には諸説あります。



「運ぶ」を支え、地域社会を笑顔にする

**ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社**

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>